

北海道理学療法士連盟主催

平成 27 年度

札幌地区研修会

1. Evidence 構築に必要な筋出力に関わる知識
～今は、臨床現場が主役～
2. 北海道理学療法士連盟の紹介

日時

2015 年 11 月 19 日 19:15 ~ 21:15

場所・会費

羊ヶ丘病院 1階 通所リハビリ「スマイル」

札幌市厚別区青葉町 3 丁目 1 番 10 号
連盟会員 2000 円、非会員 3000 円

講師

手稲溪仁会病院 リハビリテーション部 部長

北海道理学療法士連盟 幹事長 **青山 誠**

趣旨：本研修会では、「筋出力」を考える上で必要な知識を、整形疾患と脳血管疾患を網羅した内容で、「筋出力のメカニズム」「筋出力の評価」「実践例」に分けて説明します。その上で日常の臨床で考えている「筋力の増加」が、単なる「筋の肥大」によるものなのか？「使えている、使えていない」などの認知的な側面から理解すれば良いものなのか？もっと別の見方が必要なのか？などについて改めて考えたいと思います。



申し込み先：

北海道理学療法士連盟 厚別・石狩地区 事務・財務局担当
小玉裕治（えにわ病院） E-mail : kensyu271119@yahoo.co.jp

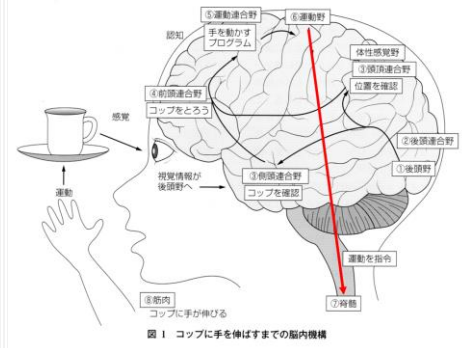
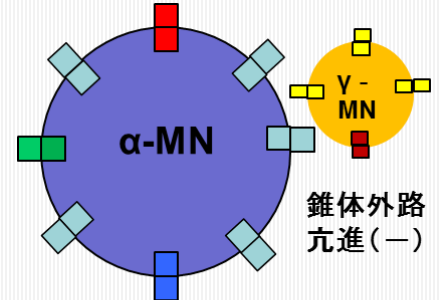
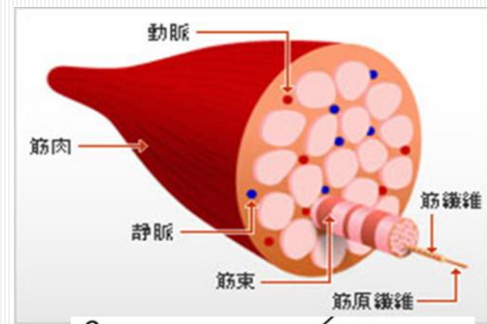
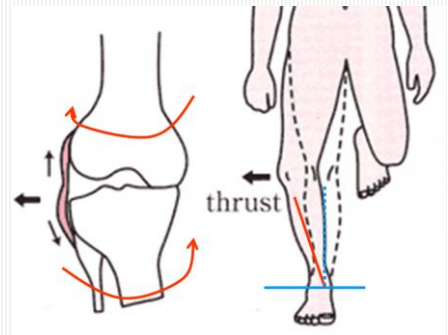


図1 コップに手を伸ばすまでの脳内機構



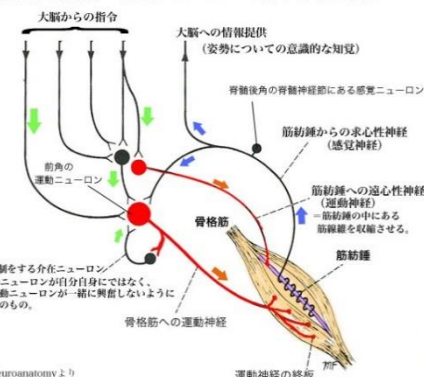
錐体外路
亢進(一)

Brunnstrom
Stage VI



④サルコメア数減少

脊髄前角の骨格筋への運動ニューロンへの数々の入力と出力



フィードバック制御をする介入ニューロン
基本的には、運動ニューロンが自身自身ではなく、
近くにいる別の運動ニューロンが一緒に興奮しないように
抑制をかけるためのもの。

Snell's Clinical Neuroanatomy より

運動神経の終板